

# 附属幼稚園だより 第6号

令和2年5月29日発行 文責：室野 亜津子

「したい 知りたい やってみよう」が  
いっぱい幼稚園

## 善意

福岡在住の附属幼稚園出身の大場さんという方が、「附属幼稚園でも消毒用のアルコールが足りなくて困ってはいないだろうか。」と心配し、長崎のお兄様に相談しました。お兄様は富士見町の大場酒店の代表でいらっしゃいます。そして、お店で取り扱っているエタノールを寄贈してくださいました。

卒園してもなお、附属幼稚園のことを思ってくださった大場さん、快く協力してくださったお兄様、本当にありがとうございました。



## おはようございます

朝、桜並木に立っていると、元気に自分からあいさつをしてくる子どもがいます。「自分から」ってすごいですね。

まだまだ、恥ずかしそうに、目も見ることができずに、小さな声で「おはようございます」という子どももいます。それでもいいのですよ。

親子登園のよさは、ここにもあります。自分からあいさつができる子どもに育つよう、朝の一時を大事にしましょう。



## 泣く気持ち

登園のとき、お母さんと離れ難くて、「ママ～」と泣いている子どもたちがまだまだいます。保護者の方も御心配だと思えます。泣くの中には、それぞれに理由があるのでしょう。お母さんと一緒にいたいという甘える気持ち、お母さんに朝から怒られてお母さんがもうお迎えに来てくれないんじゃないかと不安な気持ち、まだ集団生活に慣れず不安な気持ち、などなど。

実は、私も幼稚園で、一時期昼になるとしくしく泣いていた子どもでした。先生が理由を尋ねると、一度幼稚園から帰った時、母が買い物からまだ帰ってなかったことがあり、そのときの不安が幼稚園にいる間に思い出され「お母さんがいないかもしれない」と悲しくなったようです。

大人になると何でもないことが、子どもにとっては大きなことで、それはいくら口で説明してあげてもすっきり理解できることではなく、涙は止まりません。

先生がしっかり受け止めてあげるので、任せてください。保護者の姿が見えなくなると、そのうち諦めて切り替えますから。泣くのもしばらくの間だけです。